

膵管内粘液産生腫瘍・および膵がんにおけるバイオマーカー探索に関する研究へのご協力のお願い

課題名：膵管内粘液産生腫瘍・および膵がんにおける網羅的ゲノム・遺伝子解析によるバイオマーカー探索に関する研究

千葉県がんセンター消化器内科では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご案内するのは、ご同意下さった患者さんから検体をいただいて行う前向き研究で、倫理審査委員会の承認を得て行うものです。本研究に使用する検体は、診断目的に病理検体を採取する際、もしくは外科的切除を行う際の余剰検体になり、検体採取により体の負担が増えることはありませんと考えられます。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報保護には十分な注意を払います。

研究の対象となる方：

2015年4月から2026年3月までの期間中に、当院において、膵管内粘液産生腫瘍あるいは膵がんの診断で経過観察中もしくは治療中の方

研究目的・研究の方法：

膵管内粘液産生腫瘍は膵臓に発生し粘液を産生する腫瘍です。腫瘍は良性から悪性まで様々な段階があり、個人差はありますが徐々に進行し膵がんを発病する病気と言われています。膵管内粘液産生腫瘍の中に、急に膵がんができてしまう方が少数ですがいらっしゃることもわかってきました。しかし、腫瘍の進行や発がんにどの遺伝子が関与しているかは今のところわかっていません。膵管内粘液産生腫瘍と膵がん、両方の側面から遺伝子の異常を解析したり細胞を培養することで、これらの疾患の新たな診断・治療法の開発に役立てたいと考えております。この研究の意義についてご理解いただき、研究にご参加いただければ幸いです。

研究に用いる試料・情報の種類：

試料：生検検体、手術検体、膵液検体、血液の余剰検体

情報：診療録（カルテ）から年齢、性別、生年月日、施設症例番号（カルテID）、病名、既往歴、併存疾患、検体採取日、採取方法、採取部位、主占拠部位、主たる組織型、全身化学療法歴、放射線治療歴、予後、副作用等の情報を使用します。情報はいずれもだれの試料・情報かわからないように匿名化を行います。あなたの診療を行った施設から外部の施設に試料・情報を提供し解析を行うときも、だれの試料・情報かわからないように匿名化を行います。

研究責任者：

消化器内科 喜多絵美里

個人情報の保護について：

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

ご自身の情報が利用されることを望まない場合：

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

この研究は千葉県がんセンター倫理審査委員会が承認し、研究の実施が病院長により許可されています。

本研究に関するご質問がある場合も下記へお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書および研究の計画に関する資料を閲覧することができますのでお知らせください。

研究責任者 千葉県がんセンター 消化器内科 医長 喜多絵美里

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町 666-2 TEL 043-264-5431 (代表番号)